

安全データシート

1. 化学品および会社情報

製品名	表面コート剤
会社名	(株)エクシール
住所	岐阜県美濃市大矢田277-1
担当部署	品質保証課
電話番号	0575-33-0872
緊急連絡先	同上
FAX番号	0575-35-1590
整理番号	330001

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

・引火性液体 区分2

健康に対する有害性

・急性毒性(経口) 区分外
 ・急性毒性(経皮) 区分外
 ・皮膚腐食性・刺激性 区分3
 ・眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2B
 ・皮膚感作性 区分外
 ・生殖細胞変異原性 区分外
 ・特定標的臓器毒性(単回暴露) 区分1(中枢神経系)
 区分2(呼吸器系)
 区分3(気道刺激性、麻酔作用)

環境に対する有害性

・水生環境急性有害性 区分3

上記で記載がない危険有害性は、「分類対象外」か「分類できない」

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険

- ・引火すると高い液体及び蒸気。飲み込むと有害(経口)。
- ・吸引すると有害のおそれ(蒸気)。
- ・皮膚刺激、眼刺激。
- ・臓器、中枢神経系の障害のおそれ。
- ・長期又は反復ばくろによる中枢神経系、末梢神経系の障害のおそれ。
- ・重篤な皮膚の薬傷、眼の損傷。
- ・吸引するとアレルギー、呼吸困難をおこすおそれ。
- ・アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
- ・呼吸器への刺激のおそれ。
- ・水生生物に有害。
- ・容器に湿気及び水が混入すると二酸化炭素を発生し、破裂するおそれ。

注意書き(予防策)

- すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わない。
- 容器を密閉しておくこと。(湿気及び水混入厳禁)
- 環境への漏えいを避けること。
- 熱源、火花、裸火、高温な場所等の着火源から遠ざけること。
- 防爆型の電気機器、換気機器、照明機器を使用すること。
- 静電気放電、火花による引火を防止すること。
- ガスマスク、静電対策保護手袋、保護眼鏡、静電対策保護面、静電対策保護衣服、静電対策保護靴を完全着用すること。
- ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- 換気のよい場所でのみ使用すること。
- 換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。
- この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
化学名	変性イソシアネート
含有量	変性イソシアネート (40wt%) 酢酸n-ブチル (60wt%) (※含有量は代表値であり、規格値ではありません。)
化学式(示性式)	
変性イソシアネート	非公開
酢酸n-ブチル	C ₆ H ₁₂ O ₆
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	
変性イソシアネート	既存(非公開)
酢酸n-ブチル	2-731
CAS番号	
変性イソシアネート	既存(非公開)
酢酸n-ブチル	123-86-4

4. 応急措置

目に入った場合	直ちに清浄な水で15分間以上洗う。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、洗浄を続ける。 目の刺激が続く場合は速やかに医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、多量の水と石鹼で洗う。 皮膚刺激や発疹が生じた場合または気分が悪い時は、医師の診断を受ける。
吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で安静にさせる。 呼吸が止まっている場合は、衣服をゆるめ気道を確保したうえで人工呼吸を行う。 呼吸に関する症状が出たとき、気分が悪いときには、速やかに医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	口をよくすすぎ、速やかに医師の診断を受ける。無理に吐かせない。 被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。 窒息の恐れがあるため、吐かせてはならない。
暴露、暴露の懸念がある場合 応急措置をする者の保護	気分が悪い場合、速やかに医師の診断、手当を受けること。 保護手袋、保護衣、保護眼鏡を着用すること。

5. 火災時の措置

消火剤	粉末消火剤、耐アルコール性泡消火剤、二酸化炭素、大量の噴霧水
特定の消火方法	消火活動の際は、イソシアネート蒸気等を発生する危険性があるので自給式呼吸器等の各保護具を完全に着用して消火作業する。 棒状放水をしないこと。散水により火災が広がる恐れがある場合は、上記の散水以外の適切な消火剤を使用する。
特定の危険有害性	火災により刺激性、毒性、腐食性ガスを発生するおそれがある。

消火を行う者の保護

きわめて燃えやすい。熱、火花、火炎で容易に発火する。加熱により容器が爆発する恐れがある。引火性の高い液体及び蒸気である。自給式呼吸器、耐熱保護衣服等の消火用保護具を完全に着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項

漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立入りを禁止する。漏出時の処理を行う際には、必ず不浸透性保護手袋、不浸透性保護衣服、保護眼鏡、不浸透性保護靴、自給式呼吸器等を着用する。屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。

環境に対する注意事項

排水溝に流さない。流出した製品が河川等に排出され、環境への悪影響を起ささないように注意する。

除去方法

少量漏洩時は、乾燥土、砂及び不燃材料で吸収し、密閉できる容器に回収する。回収作業は引火を防止するため火花を発生しない道具を使用すること。また帯電防止の道具を使用すること。

大量漏洩時には、盛土で囲い流出を防止し、できるだけ液体を密閉できる空容器に回収する。この際、着火源となるバキュームポンプを使用してはならない。こぼれた場所を十分に水洗いする。但し、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

二次災害の防止策

付近の着火源となるものを取り除くとともに消火剤を準備する。火花を発生しない防爆型の安全な機器及び用具を使用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

危険物取扱所で取り扱う。
局所排気装置を設けた場所で、静電対策保護衣服、保護眼鏡、有機ガス用防毒マスク、静電対策耐油性ゴム手袋、静電対策保護靴等の保護具を完全着用する。
静電気放電に対する予防処置を講ずること。装置、機器等の設置を確実にを行う。電気機器、換気装置、照明機器、工具は防爆型のものを用いる。容器を床などに擦りながら移動しないこと。
周辺での高湿物、火花、スパーク、火気の使用を禁止する。

保管

適切な保管条件

危険物貯蔵所に保管する。容器は密栓し、乾燥した冷暗所に保管する。一度開缶した容器は乾燥窒素(または乾燥空気)で置換する。換気の良い場所に保管する。
火気厳禁。

8. 暴露防止措置及び保護措置

管理濃度

変性イソシアネート 設定されていない。
酢酸n-ブチル 150ppm

許容濃度

日本産業衛生学会(2005年版)

変性イソシアネート 設定されていない。
酢酸n-ブチル 100ppm

ACGIH(2005年版)

変性イソシアネート TLV-TWA0.005ppm
酢酸n-ブチル TLV-TWA150ppm

設備対策

室内の取扱いは、消火剤の設置、発生源の密閉化、防爆型局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

呼吸器の保護具 自給式呼吸器、エアラインマスク、有機ガス用防毒マスク
手の保護具 静電対策耐油性保護手袋
目の保護具 ゴーグル、保護眼鏡、防災面等
皮膚及び身体の保護具 静電対策耐油性保護衣服、静電対策耐油性保護長靴、静電対策耐油性前掛け等

9. 物理的及び化学的性質

形状	液体
外観	淡い黄色
臭い	特有の臭気
pH	データなし
沸点・初留点及び沸騰範囲	データなし
融点・凝固点	データなし
引火点	22°C以上(酢酸ブチル)
爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重(または密度)	0.99(20°C)
溶解性	
水	不溶
その他の溶媒	芳香族炭化水素類、エステル類、ケトン類に可溶。
オクタノール/水分配係数	データなし
分解温度	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	常温常圧の条件では安定。
避けるべき物質	強酸化剤と激しく反応し発火する。塩基性物質、還元剤と反応する。 酸化剤との反応により爆発性過酸化物を生成する。
危険有害分解生成物	加熱分解により一酸化炭素、二酸化炭素を発生する。

11. 有害性情報

急性毒性	
急性毒性(経口)	LD50ラット>1100mg/kg
急性毒性(経皮)	LD50ラット>1355mg/kg
急性毒性(吸入:蒸気)	LD50ラット>0.786mg/L
皮膚腐食性・刺激性	ウサギ 腐食性がある
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	ウサギ 腐食性がある
皮膚感作性	データなし
呼吸器感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1 中枢神経系の障害 区分2 肺障害のおそれ 区分3 気道刺激性
標的臓器/全身毒性(反復暴露)	情報なし
吸引性呼吸器有害性	分類できない

12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)	区分3
水生環境有害性(慢性)	区分外
生態毒性	情報なし
残留性、分解性	情報なし
生物蓄積性	情報なし
その他	情報なし

13. 廃棄上の注意

関連法規及び地方自治体の基準に従うこと
空容器を廃棄するときは、内容物を十分に取り除くこと。

硬化物、内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託すること。

14. 輸送上の注意

国際法規制	
海上輸送	IMDGの規則に従う。
航空輸送	IATAの規則に従う。
国内法規制	
陸上輸送	消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。
海上輸送	船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送	航空法に定められている運送方法に従う。
国連分類	1123(酢酸ブチル)3
輸送の特定の安全対策及び条件	運送に関しては、容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。 危険物が激しく漏れる等の災害が発生する恐れがある場合は災害防止の応急処置を講じて最寄の消防機関、関係機関へ通報すること。 食品、飼料を混載して輸送してはならない。容器が破損する恐れのある重量物を上積しないこと。移送時にイエローカードを携帯すること。

15. 適用法令

消防法	危険物 第四類第二石油類非水溶性液体
労働安全衛生法	有機溶剤中毒予防規則 第二種有機溶剤 名称等を通知すべき有害物 名称等を表示すべき有害物 危険物 引火性の物 第57条の2 通知対象物質:HDI
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
船舶安全法	引火性液体類
航空法	引火性液体
労働基準法	疾病化学物質
海洋汚染防止法	有害液体物質 Y類物質
水質汚濁防止法 生活環境項目 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」	160mg/L以下

16. その他

引用文献等

- ・社団法人 日本化学工業協会編 GHS対応ガイドライン 製品安全データシート作成指針(改訂2版) ラベル表示作成指針
- ・ウレタン原料工業会編「ポリウレタン原料について・安全取扱いの手引き」
- ・国際がん研究機関(IARC)発がん性リスク一覧表
- ・溶剤ハンドブック
- ・その他資料

本データシートは、新しい知見や記載に漏れ等があった場合、内容が変わることがあります。
本データシートは情報提供の為に作成された物であり、物性や評価等について保証をするものではありません。
実際の取扱については本データシートを参考の上、用途、用法に適した安全対策をおすすめ致します。
必要に応じて試験等をした後、取り扱うことをお勧め致します。